

連載 第12回 『試聴室探訪記』

～谷口とものり、魅惑のパノラマ写真の世界～

加藤 滋邸のリスニングルーム訪問

フォトグラファー 谷口 とものり
編集委員 森 芳久



今回は、大手電気メーカーにお勤めの加藤滋氏のお宅にお邪魔いたしました。通勤に便利な都内 JR 某駅前のマンションに住まわれている加藤氏、マンション故の諸制限の中で、音楽とオーディオを楽しむため独自のスペースを作り上げられています。

「プログラムソースは、曲と演奏が気に入ればジャンルを問わずに何でも聴きます」。その言葉通り、手持ちのソフトは SA-CD、CD、DVD、Blu-ray まで幅広いコレクションをお持ちで、それは廊下にまで高く積み上げられています。

「幼いときから音楽が大好きでした。学生時代にはオーディオにも興味を持ち少しはかじりましたが、小遣いで買える装置には限界があり、もっぱらコンサートに通い生の音楽を楽しんできました。オーディオマニアというより音楽マニアですね。私はいつも録音より音楽性を重視しています」。そんな加藤さんが本格的なオーディオの世界を目指したのは、2003 年、Blu-ray Disc Recorder の開発を担当した時のことである。

「自分でも趣味としてのサラウンド・システムを楽しまなければ、これ以上の開発はできないと思い、サラウンド・システムを自分自身で構築したのがスタートでした。そして、サラウンドの音を改善してゆく中で、2ch オーディオの原点に回帰したのです」。確かに、現在の加藤氏の装置はサラウンドではなく 2ch に特化し、それぞれの機器の特長を最も良く表現できるよう細部にわたり吟味されています。

加藤氏の目指されている音を具体的にお伺いしたところ、

- 1) 楽しい音＝元気をもらえる音、「私は『音楽は個人のリズムと合奏のリズムの複合作用』と考えているので、この二つのリズムがきちんと再現できること」。

- 2) 心地よい音=癒される音、「楽器の倍音と合奏の和音がきれいにのった音の再現」。
- 3) 音の立ち上がりが速い音、「私はヴォーカル同様、楽器にも母音と子音があると思っています。録音された子音がきちんと再現できるように立ち上がりの速い音を目指しています。再現された子音で音楽性が高まるのです」。
- 以上3点の応えが返ってきました。

現在、さらにチャレンジされていることとしては、










- 1) 録音年代により音源の差が大きいので、これらをひとつの装置でいかにいろいろな状態のディスクを両立させていくか。
- 2) デッドな録音とライブな録音の両立。
- 3) 楽器のミュートとの再現。特にエレキ・ベースの和音の持続音の再現だけでなく、ミュートの再現をどこまで追い込めるか。

まだまだ、加藤氏のオーディオに対するチャレンジと健闘は続くことでしょう。その結果が氏の装置だけでなく、氏が手がける製品に反映され、一日も早く我々に届くことを祈っています。

(森 芳久、文責とも)

パノラマ画面の操作説明

- パノラマ写真は、[ここ](#)か、はじめのページの[試聴室画像](#)をクリックしてご覧ください。
(ローディングに若干時間がかかる場合があります。)
- マウス操作で、画面を上下・左右 360 度、自在に回転してご覧いただけます。
- スピーカー、アンプ等、マウスを当てて、クリックすると機器名が表示されます。
- 画面下にある操作ボタンで次の操作ができます。

- | | |
|---|------------|
|  | 画面のズームイン |
|  | 画面のズームアウト |
|  | 画面の左方向への移動 |
|  | 画面の右方向への移動 |
|  | 画面の上方向への移動 |
|  | 画面の下方向への移動 |
|  | サウンドオフ |
|  | フルスクリーン |
|  | 画面回転ストップ |